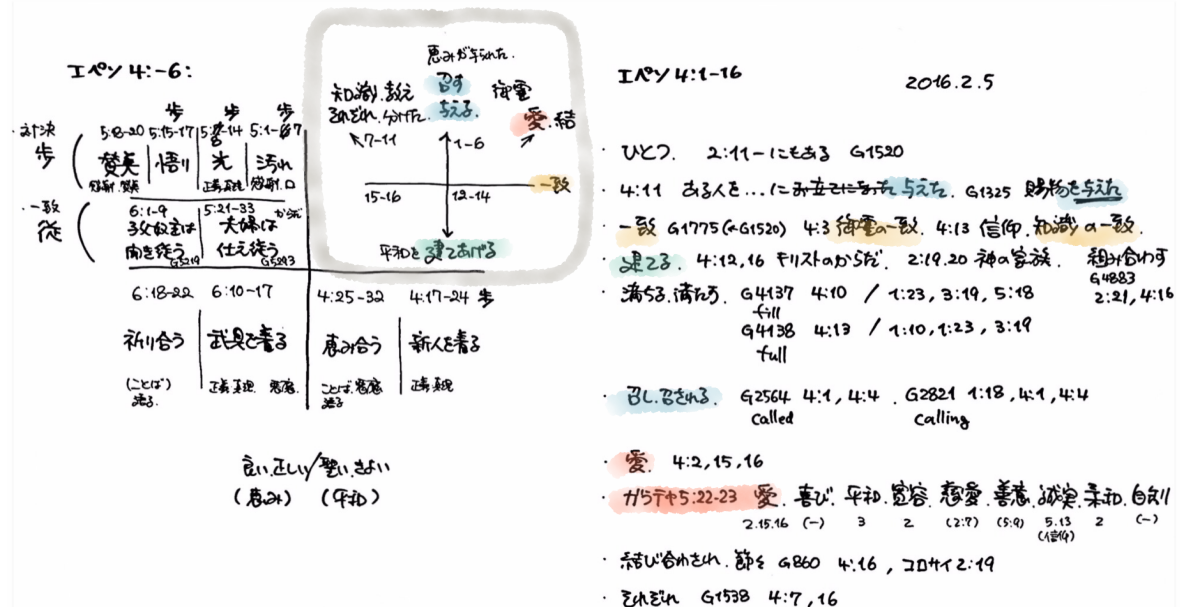




エペソ人への手紙 1-6章
エペソ人への手紙の祈り



エペソ人への手紙の4章1節から16節。昨日はひとつになるのと、建て上げるというのを分けていたところです。そこを少し詳しく見てみました。見ましたらば、結構大変でした。4つに分けるのに、どこで分けようかと。14節と15節の間で分けられるのか？でも、14節は理由で、15節も理由で、一つの文章だよなというようなところで、困ったりしました。いろんなキーワードですね、それぞれのキーワードが繰り返しがあるから、それを見て区別しようということで見てみました。

例えば、4章11節「ある人を伝道者、ある人を牧師または教師としてお立てになった」と書いてあるのは、その人たちを「与えた」ということばですよ。それは、賜物を与えたと言っている「与える」というのと同じなのですよというところ、で、「与える」話もあるんだと。

一致の話も特に目立つよね。それと、一つ一つ。一つ一つの部分と書いてあるのは、すべてとか、allとか、everyとか、みな同じみたいで、すべて、あらゆる、すべて一つ一つみたいなのが…一つがいろいろあるねと。

満ちる話も、満ちると満たすとか、似ているものがいろいろあります。それぞれ、結び合わされるときには、節々が、関節が…は、コロサイ人への手紙にあったねというのも見たり…。

ガラテヤ人への手紙をやったばかりですね。ガラテヤ人への手紙に出てくる御霊の実。愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、誠実、柔和、自制。その愛と平和、寛容(は、ここに出ています)。慈愛と善意は別の段落にあるという意味です。誠実、柔和、自制はエペソには出ていない。喜びも出ていない。誠実は信仰ということばになっているということで、1,2…5。半分以上(ここに)出ていますので、御霊の賜物の話が、ここに出

ているということは、紛れもない事実ですね。それで、この4つに分けてみました。1から6、7から11、12から14、15と16。

12から16(下段)は、建て上げるで始まって、建て上げるで終わっているのだから、建て上げるという話だねと。1から6と、15から16は、愛の絆で結ばれているというようところが強調している。7から11と、12から14は、それぞれに賜物が与えられて、それぞれが働く、それが一致のためですというのが区別されているのかなというふうに見ました。

こちらは一つになっていると。御霊の一致のほうです。その中がそれぞれ分かれている、一致の為に分かれているというのがそれぞれの働きというクロスの平行があるかなと。

では、建て上げるに対しては何だろうということだったのですが、1から6、7から11のところは、召された、召された。神様のところに呼ばれて召された。召されたのは、こんどは賜物を与えた。召される話と与える話。それと建て上げることが平行している。これは、なんだろうと考えていました。

これは1章からのところにもありますけれど、子どもにされる、相続を受ける、賜物を受けるということで、選ばれる。恵みが与えられる。恵みによって子どもにされて、賜物を受ける。それは御国を建て上げるためであるということです。御国という言葉はここに出てこないのですけど、キリストのからだ、教会を建て上げる。平和という言葉も出てこないのですけど、建て上げるのは、一つになる。教会が、からだが一つになることによって建て上げるということですから、からだそれぞれが愛の帯で結ばれて、平和によって建て上げられるということです。恵みが与えられるという前半と、からだ建て上げられるという後半で分けられるのではないかなということで、この4つに分けました。

御霊の一致と信仰の一致という一致の共通点はこちら(右側)にはあるのですけども、こちら(左側)には、？どうだろう？ということです。この御霊の一致と信仰の一致。一致自体は、ここの段落(4:1-16)の特徴のキーワードなので、この段落の中を分けるキーワードとしては取り扱わなくてもよいのではないかなと今は考えております。